

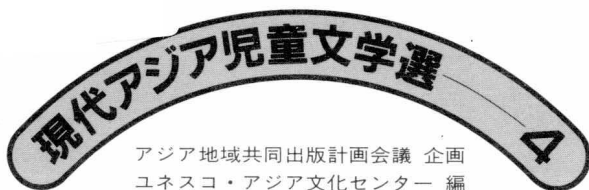
現代アジア児童文学選

アジア地域共同出版計画会議 企画
ユネスコ・アジア文化センター 編

サバの 思いちがい

松岡享子 監訳





アジア地域共同出版計画会議 企画
ユネスコ・アジア文化センター 編

サバの 思いちがい

松岡享子 監訳

東京書籍

現代アジア児童文学選 4
サバの思いちがい

昭和58年10月1日 第1版第1刷発行

訳 者 原みち子・張替恵子
松井由紀子・松野正子
三神弘子

発 行 者 小高民雄

発 行 所 東京書籍株式会社
東京都台東区台東1-5-18 〒110

印刷・製本 図書印刷株式会社

定価1000円

©1983, Printed in Japan

乱丁・落丁の場合はお取替いたします

8397-518049-5313

現代アジア児童文学選 — 4

サバの思いちがい

も

く

じ

インドネシア
サバの思いちがい
5

韓国
表彰第一号
15

ネパール
三つの金の宝
31

マレーシア
金の腕輪
49

バングラデシュ
モルモット事件
71

インド
パチンコを持った少年
95

シンガポール

リチン岩のできごと

111

ニュージールランド

野火

139

日

本

わらぐつのなかの神様

155

● 翻訳者一覧

サバの思いちがい

松井由紀子

表彰第一号

三神弘子

三つの金きんの宝

原 みち子

金きんの腕輪うでわ

松井由紀子

モルモット事件

張替恵子

パチンコを持った少年

松野正子

リチン岩のできごと

松野正子

野火

松野正子

インドネシア

サバの思いちがい

C・M・ナス 作

A・ワキジャン 画

松井由紀子 訳



夜がふけてきました。キャンプファイアのまわりでの行事もすみ、就寝ラッパもとつくに鳴りました。見張り番以外のボーイスカウトたちは、ほとんどがすっぱりと毛布にくるまって寝ています。

サバが家をはなれて生活するのは、これがはじめてのことです。毛布にくるまって横になりましたが、目がさえて寝つかれません。このキャンプ地に向かって出発した朝からのことが、次々と思い出されるのです。となりにいるロダンにずっと話しかけていましたが、ロダンはろくに返事もしないで、まもなくいびきをかき始めました。

サバがようやくねむりそうになったとき、なにかへんな音がしました。テントの外でだれかがそつと動きまわる気配がするのです。それから、石をふんだような音がしました。なんだろう？　ところがふしぎなことに、耳がさえてくるにつれて、サバの目は反対にねむくてくつつきそうになり、つい、うとうととしてしまいました。

とつぜん、サバは冷たい手で両方のほおをさつとなでられたような気がしました。ハツとして目をさますと、その瞬間、だれかが身をかがめてテントの外へ出ていくのを見えました。

サバは、はねおきました。横ではロダンが高いびきをかいています。サバはテント仲間をかぞえました。五人ともそろっています。ということは、今、出ていった男の子は、自分のテント仲

間ではないわけです。いったいだれなんだろう？

サバは手さぐりで懐中電灯かいちゆうとうをとり出しました。光をつけて自分のまわりを見ましたが、なにもなくなっています。ロダンを照らしてみると、顔が炭のすすでまっ黒によれているではありませんか！サバはほかの仲間の顔も照らしてみました。やっぱりすすでまっ黒です！

それからサバは横になりましたが、急におきあがりました。

「……ということは、おれの顔もまっ黒なはずだ！」と、思ったのです。

サバは、懐中電灯をとると、リュックサックをひっかきまわして鏡をさがし出しました。やっぱり！サバの顔もまっ黒によれていました。

「ちくしょう！」サバは、かけてあったタオルをとって顔をふきました。

「そうだ！ヤーヤのしわざにきまっている。そういえば、さっきこそそと出ていったやつの体つきといい、しぐさといい、あれはぜったいにヤーヤだ。ようし！」サバはしかえしをしようと思いました。

サバはまず、キャンプファイアの場所へいき、焼けのこりのまきをさがしました。そして、それをテントに持って帰り、焼けたところをけずって、すすを木の葉に集めました。それから、そ



れを持って、懷中電灯はわざと置いたままで、向かいのテントにしのび寄りました。

そのテントにこっそりはいったとき、サバの胸は早鐘はやねのように打ちました。ヤーやは、この中にいるはずです。テントの中はまっ暗でした。しばらくして、くらやみに目がなれてくると、大の字に寝ている三人の姿がどうにか見えました。どれがヤーヤかな？ たぶんあのはじつこのやつがそうだろう、とサバは見当をつけました。

「待てよ。ヤーヤはおれだけでなくテント仲間みんなの顔にすすをぬりつけたんだ。ようし！」サバはまよわず、寝ている三人に、さつき用意したすすをぬりたくりました。サバの胸は、テントの外へ出るまでずっとドキド

キしっぱなしでした。外の冷たい空氣がなんと心地よかったことか！東の空に高く昇っている月の光がなんと美しく輝いて見えたことか！やつとのことで、サバはほっとしました。

すると、とつぜん、大きな声がしました。

「だれだ？」

「ぼくだよ。」と、サバはおちついて答えました。

「やあ、おまえか、サバ。なにをしているんだい？」

「うん。冷たい風にあたりたくてね。ねむれないんだ。きみが今、見張り番かい？」と、サバはききかえました。

「そうなんだ。あと三十分な。」

「そうか。ごくろうさん。おれは、ちよつと川^{*}までいってくるよ。どうも腹ぐあいが悪いんだ。」と、サバはいいわけをしました。

「よし！いつてこいよ。だが氣をつけろよ。あそこはすべりやすいからな。」と、見張り番の子が注意しました。

サバが五歩もいかないうちに、だれかが川の土手をよじ登ってくるのが見えました。

「だれだ？」サバは大声でききました。

「おれさ！おまえこそだれた？」

「えっえー！きみ、ヤーヤかい？！」

「そうだ。どこへいくんだ、サバ。」と、ヤーヤはすれちがいがらきました。サバはあつげにとられて口をあんぐりあけたまま、ヤーヤのあとをついていきました。ヤーヤは、しらん顔をしないで、さっさと自分のテントに向かって歩いていきます。

「おれの顔にすすをぬったやつは、たしかにヤーヤだと思ったんだけどな。おれはテントの中でねむっているヤーヤにしかえししたはずなんだがなあ。でも、あいつはたった今、川のほうからやってきて、ここにいる。すると、おれは、いったいだれにすすをぬっちゃったのかな。」サバはあれこれ考えました。

次の朝、ラッパが予定の時間より三十分早く鳴りました。キャンプ地は高い丘の上にあったので、あたりはすっかり明るくなっていました。

ボーイスカウトの隊長は、みんなに整列するように命令しました。そしてひとりずつ、顔をのぞきこむようにして点検してまわりました。列の間から、しのびわらいがしています。隊長の顔

* インドネシアの村では、川の上にはりだした木づくりの便所を使い、川の流れが、自然の水洗便所の役をします。



に、さすがついているからです。でも、みんなは緊張していました。ラッパが早く鳴ったのは、なにか悪いことがおきたからにちがいありません。隊長はおこった顔をしています。

サバは寝すごして、おくれて列にはいりました。隊長は点検し終わって、みんなに向かって強い口調で話し始めたあとでした。

「これはだれの仕業しわざだ？」

しーんとして、だれも答えません。小鳥のさえずりだけが、きこえています。

「もう一度きく。だれがこんなことをしたのか？悪いことをしておきながら責任をとらないスカウトは除名される。勇気を出して正直に男らしく名のり出るんだ。だれが

やったかわかっているんだぞ。いい出す勇氣があるかどうかきいているだけだ。さあ、もう一度くりかえしてきく。だれのしわざだ？」

サバはこわくなりました。あのしかえしが、こんなさわぎをひきおこすとは思っていませんでした。もう、どうすることもできません。してしまったことなのですから。そこで、一歩前に出て手を上げました。

「よし！」と、隊長はさげました。

「組長は列を解散して、それぞれのテントの中と外を掃除しろ。すんだらここにまた集合して、体操を始める。さて、サバだけは、おれのテントへいつて待つてゐるんだ。」

サバの胸は、またもや早鐘のように打ち始めました。サバは隊長のテントにいき、隊長がくるのを待つていました。

しばらくしてテントにはいつてきた隊長は、サバに向かつていいました。

「サバ、こんど夜中に腹がへったら、おれをおこせ。ここにはビケットが用意してある。いくらでも食べていいんだ。しかし、だ。たまごをぬすんではいかん！」

「えっ？ たまご？ ぼくは、たまごなんてぬすんではいけません。」

「だが、おまえはたった今、白状したではないか。」

「ぼくは、あのすすをぬりたくったことをきかれたと思ったんです。」

「ははあん。どうりで。きみがあのすすさわぎをおこしたんだな。」

「だれかが先に、ぼくの顔にすすをぬったんですよ、隊長。そこでぼくはしかえしをしたつもりだったんです。でも、どうやら相手をまちがえたみたいです。」

「おれのたまごのことはどうなんだ？」

「そんな……、隊長、ぼくはぬすんでいません。ほんとうです。ちかいます！」

「あつ、そうだ。今、思い出した。すまん。たまごはきのう、米袋の中に入れたんだった。」

まったくそのとおりでした。なくなったと思われたたまごは、五個ともちゃんと、お米の中にもれていました。

隊長は、思わずふき出してしまいました。